

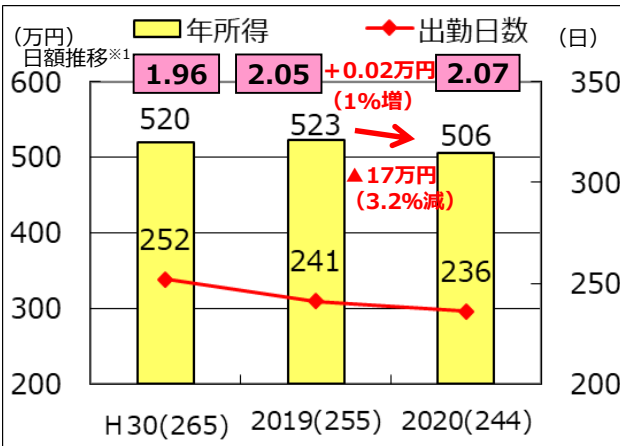
基礎作業員の年収調査(2020年)

1. 調査対象 (送研関西支部会会員の協力会社)

対象会社数	対象人員
10社 (11社)	154人 (143人)

() 内前年
1社：高所で整理

2. 年間所得および日額金額の推移



() 出勤扱い日数 = 出勤日数 + 無仕事有給日数

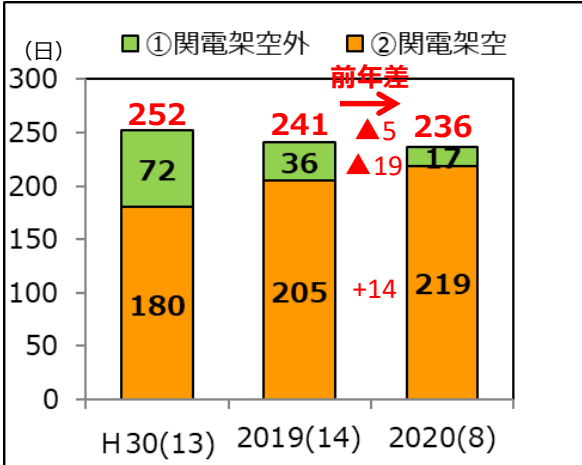
*1 日額 = 年収 / (出勤日数 + 無仕事有給日数)

・昨年と比べて年収減: ▲17万、日額増+0.02万となり、年収506万、日額2.07万となった。
(新規・中途採用が影響か)

・年収には、技術継承費21万円が含まれている。技術継承費を除くと日額単価は1.99万円となる。

・コロナ渦であったが、建設業は好況のため、条件の良い公共事業等への人材流出が懸念される。

3. 稼働日数の推移



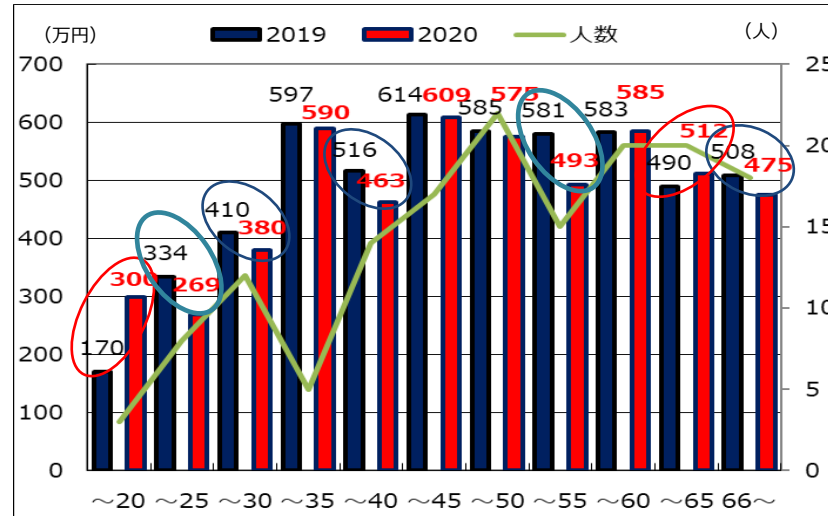
() 内は無仕事有給日数

・働き方改革の推進の影響か、出勤日数は前年より減(▲5)となった。無仕事有給日数は前年より6日減の8日となった

・関電架空工事での稼働は、2019:85%⇒2020:93%となった

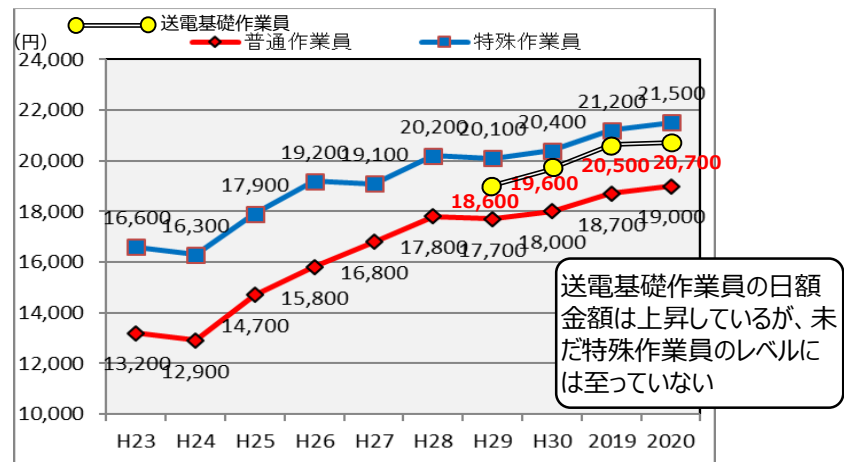
・働き方改革の推進により出勤日数が減となると、日給月給制の作業員は年収減を避けるため、休日に他現場、他職種でアルバイト等を実施し、そのまま離職につながる等の懸念がある

4. 年齢別平均年収の分布と推移



・20歳以下で2割弱の増があるが、20-25歳で2割、50-55歳で1.5割と大きく下げた。また、25-30,35-40、66歳以上でも1割程度の減となった

(参考) 公共工事における建設作業員単価の推移



送電基礎作業員の日額金額は上昇しているが、未だ特殊作業員のレベルには至っていない

[国土交通省公表資料]

- ・普通作業員：普通の技能を有し、人力で掘削等を行うもの
- ・特殊作業員：相当程度の技能を持ち、機械の運転等を行うもの